

文責：(栗田委員・事務局一部修正)

| | | | | |
|----------------|---|-------|--------|-------|
| (1) 会議の名称 | 大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会 (第4回) | | | |
| (2) 開催日時 | 平成 29 年 9 月 27 日 (水) 10:00~12:00 | | | |
| (3) 開催場所 | 新井宿特別出張所 2階会議室 | | | |
| (4) 出席した委員、事務局 | 委員 (部会長：青山 明子) | | | |
| | 白井 絵里子 | 山根 聖子 | 相原 美晃 | 鶴田 雅英 |
| | 栗田 総一郎 | 林 達彦 | 秋葉 照美 | 内藤 啓介 |
| | 井岡 幸子 | 山田 悠平 | 岡田 あい子 | 帯瀬 和明 |
| | 伊藤 明春 | 山田 紗梨 | 藤牧 裕佳子 | 岡本 洋 |
| | 川島 浩子 | | | |
| | 区職員： | | | |
| | 区事務局：平野 理恵子・関根 あずさ (障害福祉課) 齋藤 愛理・森田 好美 (障がい者総合サポートセンター) | | | |
| (5)内容・要旨 | <p>1 部会長のあいさつ</p> <p>2 確認・連絡事項</p> <p>(1) 司会：相原委員、記録：栗田委員</p> <p>(2) 出欠者の確認</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>(4) 事務局からの連絡事項</p> <p>年間スケジュールを確認。今年度は3事例の検討となるため、当初の予定に加えて、11月22日(水)に部会を開催することで合意。</p> <p>3 前回の振り返り (議事録にて確認)</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 事例検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4グループに分かれて事例を検討し、課題と解決策を抽出した。事例の振り返りを行うとともに、その中から「もどる仕組み」の課題について整理し、現在の社会資源、制度、インフォーマルな地域資源等を活用して、「すぐできること」や「時間を要すること」について検討を行った。 <p>a.グループホームの情報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々のグループホームの特色や空き情報、新規開設情報が発信する側と受け手側でマッチングされていない。 ・グループホームの情報がまとまっていない。情報を集約し、発信する仕組みが必要。項目は、空き状況、男女比、特色、対象者、条件、場所、待機者情報、新規設立情報等が挙げられる。「待機」情報を含めることで、新規参入業者の参考にもなる。家族側、事業所側どちらにとっても活用できるものがあると良いのではないかと。 <p>⇒グループホーム連絡会でアンケートを実施し、実態の把握や各グループ</p> | | | |

ホームの特色を集約できないか、グループホーム連絡会で協力いただけるか確認をする。

b.情報について

- ・情報伝達に格差があり、必要な情報が入手できない。
- ・事業所が相談できる場が不明確となっている。

⇒対応状況を蓄積できる場や、情報が一括して集まるような仕組みづくりが必要となる。

c.グループホームについて

- ・孤立しがちなグループホームだが、地域生活支援センターが介入することで利用者や世話人の環境調整につながる。しかし、地域生活支援センターは少ない。

⇒地域生活支援センターの役割や仕事内容を部会で共有し、必要性を発信する場を設けるのはいかがか。

- ・現在、区内のグループホームの体験の場は少ない。グループホーム体験の場とアパートなどの暮らしの体験ができる仕組みができると良い。
- ・体験型グループホームが不足しているが、体験型に特化すると、空き部屋を確保することとなり、事業所としては財政的な負担となってしまう。

⇒公営の体験型に特化したグループホームの設置ができると良い。

- ・数日のグループホーム体験であっても、計画相談・個別支援計画・モニタリング等により、現場の業務量の増加により負担が増してしまう。

⇒人材の確保が課題となる。

(2) 公開勉強会について

戸枝陽基（とえだひろもと）氏を講師に迎え、障がい者の地域生活を考える公開勉強会を行う。

(3) 第2回本会での中間報告について

本会に向けて、中間報告資料の案文を確認した。

次回日程 作業部会：11月15日（水）10時～12時
部 会：11月22日（水）10時～12時